

(南海トラフ巨大地震ケース⑪)

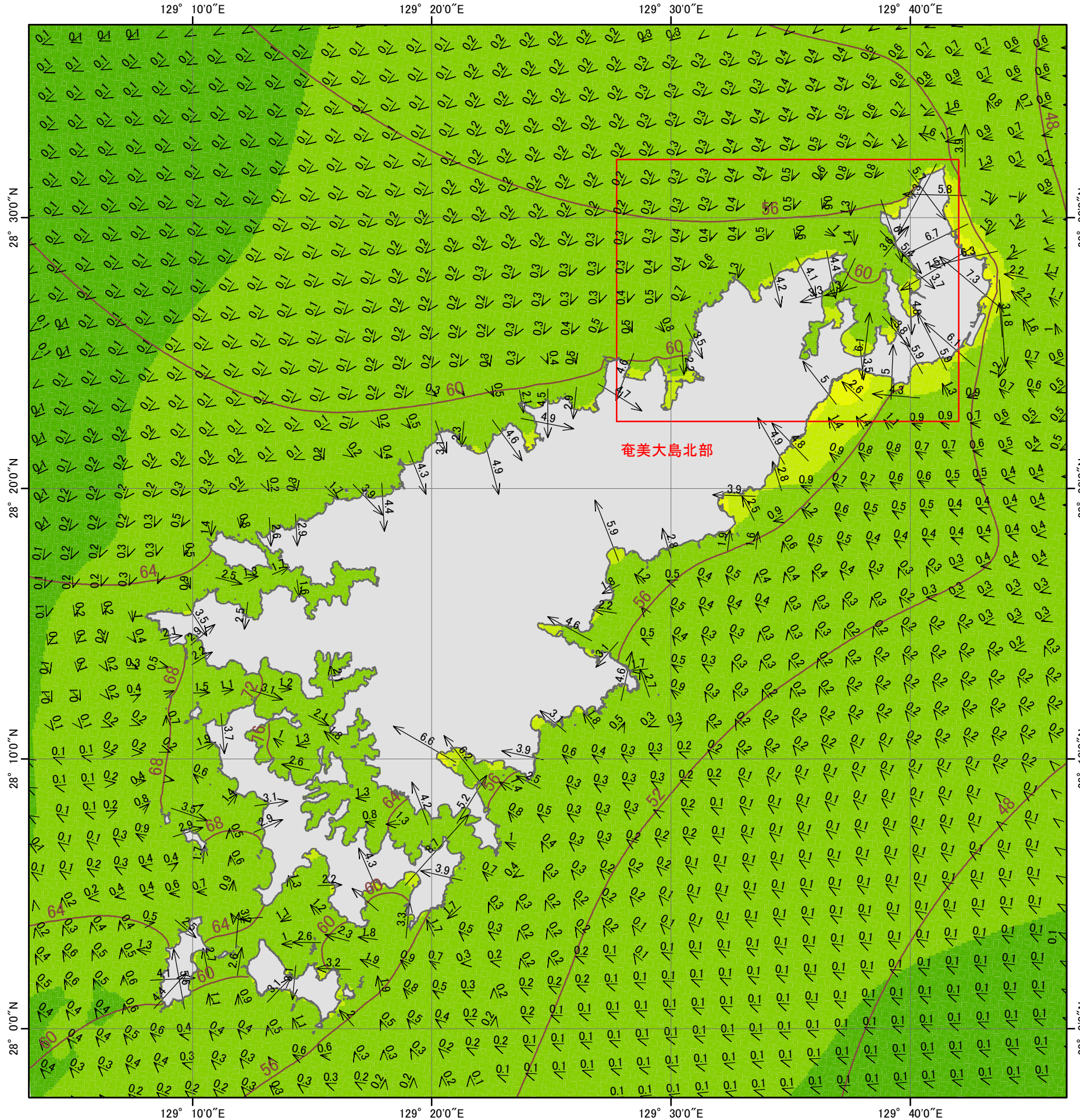
奄美大島 津波防災情報図 (進入図)

計算条件： 最高水面（零位）  
 隆起量： 平均 -0.04m(-0.05m ~ -0.03m)  
 Zo： 1.15m  
 備考： 本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。



座標系：メルカトル図法  
 測地系：世界測地系 (WGS84)

赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。



凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

最大水位上昇

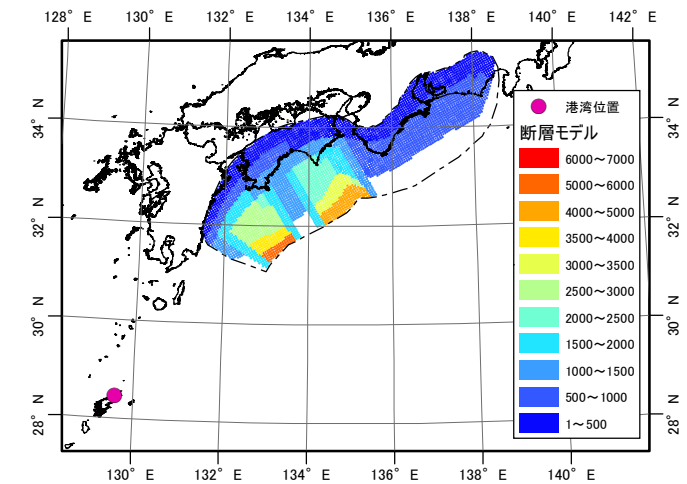
- 3~最大4.8m
- 2~3m
- 0.5~2m
- 0.5未満

進入時最大流 [knot]

- 6 knot
- 4 knot
- 2 knot

- 津波の到達時間は、水位が最高水面から10cm変動した時点を出している。
- 防護施設は、津波の越流と同時に破壊されるものとして計算している。
- 流向変化が激しく、進入・引潮等の判別が困難な海域では、流速のみを表示した。
- 流向、流速の表示については、陸岸から概ね500m以上離れた地点から表示した。

断層モデル



ケース⑪「室戸岬沖と日向灘に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km <sup>2</sup> )	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.6 X 10 <sup>22</sup>
平均すべり量 D (m)	11.2
モーメントマグニチュード Mw	9.1

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）」により公表されたものである。使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、本図の区域において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。  
 ○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。  
 ・海上保安庁が保有する水深データ

作成機関：海上保安庁  
 防災情報図作成年月：令和元年6月（初版）  
 地形データ作成年月：平成31年3月（初版）